

教師海外研修概要

JICA の開発教育支援

グローバル化が進む現代では、地球規模で多様な課題を抱えています。

貧困・環境・人権などの課題を抱える地球が、より持続可能な方向へシフトするにはどうしたらいいのでしょうか。

持続可能な開発のための教育(ESD)にも挙げられているように、その解決に向けての鍵の1つは「教育」にあると考えられています。

相互依存が深まる世界において、開発途上国が直面する多様な課題を自分たち自身の問題として考え、その解決のために自ら行動に移すことのできる人間を育成するために、開発教育・国際理解教育への関心はますます高まるばかりです。

JICA 関西では、開発途上国における技術協力事業、資金協力事業で培った経験、人材やネットワークを活用し、国際協力出前講座、JICA 関西訪問、教師海外研修、開発教育指導者研修等の開発教育支援事業を関西地域で広く実施し、地域での開発教育・国際理解教育を支援しています。教師海外研修は、その事業の一つです。



教師海外研修とは……

I. 研修目的

開発教育・国際理解教育に関心を持つ教員を対象に、実際に開発途上国を訪問することで、開発途上国が置かれている現状や国際協力の現場、開発途上国と日本との関係に対する理解を深め、その成果を、学校現場での授業等を通じて、次代を担う児童・生徒の教育に役立ててもらおうことを目的として実施しています。

小学校・中学校・高等学校・特別支援学校などの教員に、JICA が協力を行っている開発途上国での10日程度の海外研修に、参加していただきます。

帰国後は、海外研修で得た経験を、参加した先生自身が自分の教室で子ども達に伝えています。さらに、その経験をそれぞれの地域において、広く発信していただき、開発教育・国際理解教育の実践者として活躍いただくこともねらいとしています。



II. 教師海外研修の流れ

※（ ）内の日程は2017年度の日程です。2018年度以降の日程はHPをご確認ください。

募集・選考

- 募集（4/1-5/10）
- 書類選考（5月中旬）
- 選考結果通知（5月下旬）
- 面接選考（5/28）
- 選考結果通知（6月上旬）



国内事前研修

- 第一次事前研修（6/11）
- 第二次事前研修（7/1-2 1泊2日）



開発教育指導者研修等に自主的に参加し教育力向上！

※ JICA 関西でも、関西各地で以下のようなセミナーを実施していますので、国内事前研修に加えて、参加を推奨しています。

- 国際教育教材体験フェア in 滋賀（6/25）
- 開発教育入門セミナー（7/9）
- 開発教育・国際教育セミナー（8/4）
- 多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナー（8/7、8）



海外研修

- ネパール（8/6-8/16）（8/24）までに海外研修報告書提出



国内事後研修

- 事後研修（8/27）



勤務校における授業実践

- 9月-12月



授業実践報告書提出

- （12/11）締切



教師海外研修報告会

- （2/4）

ネパールで 見たこと 感じたこと

▶ 車、バイクの多さもさることながら、大通りのど真ん中に野良牛が・・・
みんな牛を上手に避けていきます。【樋上】



◀ はじめは辛かっただけのネパール料理。
手で食べると不思議とおいしく感じる!?
【永森】



▶ 業者は余ったケーブルを切らずに巻いてくそう。中には盗電のケーブルもあり、ネパールの電力事情がうかがえる。【上内】



◀ バシュパティ寺院。死と向き合い、自分を知ることによって命の尊さと向き合える経験であると思う。【和田】





◀ ボダナート。ネパール最大のチベット仏教の仏塔であり、青空の下、たくさんの人が祈りを捧げていた。震災で大きな被害があったこの場所。美しい姿は、震災の爪痕を感じさせないものであった。【宮本】

▶ ネパールの子どもたちの登下校の様子。みんなきちんと制服を着ているのが印象的。都会ではスマホも当たり前？【倉】



◀ 首都から車で4時間の山の中にある、タマン族の子供たちが学ぶ学校。教室には電気がなく、設備は乏しい。外国人の私たちに向ける表情ははにかんでいるけれど、瞳には好奇心が溢れていた。【堀尾】

▶ 日本から学んだ防災教育の教材を、ネパールの学校の先生が、生徒に必要な内容へ工夫していたことに教育への情熱を感じました。【橋本】



◀ 家にコーン畑があり、実を小麦粉や家畜のエサとして与えた後、芯を乾燥させて燃料として使います。全てを無駄なく使う精神、私たちも見習うべき点です。【西】



研修国概要



ネパール連邦民主共和国 (Federal Democratic Republic of Nepal)



- 首 都**：カトマンズ
- 面 積**：14.7万平方キロメートル（北海道の約1.8倍）
- 人 口**：2,649万人（2011年、人口調査）
- 民 族**：パルパテ・ヒンドゥー、マガル、タルー、タマン、ネワール等
- 言 語**：ネパール語
- 宗 教**：ヒンドゥー教徒（81.3%）、仏教徒（9.0%）、イスラム教徒（4.4%）他
- 政 体**：連邦民主共和制
- 主要産業**：農林業、貿易・卸売り業、交通・通信業
- GDP(名目)**：約243億ドル（2016／2017年度、ネパール財務省）
- 一人当たりGDP**：約848ドル（2016／2017年度、ネパール財務省）
- 通 貨**：ネパール・ルピー
- 日本の援助実績**：(1) 有償資金協力（2015年度まで、E/Nベース）1,050.26億円
(2) 無償資金協力（2015年度まで、E/Nベース）2,049.42億円
(3) 技術協力（2015年度まで、JICA経費実績ベース）708.34億円
- 主要援助国（2015/2016年度）**：(1) インド
(2) 日本
(3) 英国
(4) スイス
(5) 中国
- 在留邦人数**：1,107人（平成28年10月1日現在、海外在留邦人数調査統計）
- 在日ネパール人数**：67,470人（2016年12月末現在、法務省在留外国人統計）

（2017年9月1日付外務省ホームページより）

国内研修

第一次事前研修

(1)日時:2017年6月11日(日)10:00-17:00

(2)目的:①JICA事業についての理解を深める。

②教師海外研修全体の趣旨を理解し、目的意識を明確化する。

③海外研修の概要を知り、研修全体の理解を深める。

④開発教育に関する知見を深める。

⑤派遣国の知見を深める。

(3)プログラム内容

時間	内容	講師
10:00-12:00	オリエンテーション ●自己紹介 ●JICA事業概要説明 ●教師海外研修の目的について	JICA 関西
12:00-13:00	休憩	
13:00-15:00	ワークショップ① ●開発教育とは? ●教育者としてこの研修に参加することの意識を共有する ●ベーシックな手法を体験	川崎医療福祉大学 山中 信幸 氏
15:00-16:30	ネパールについて学ぶ① ●JICA ボランティア活動について ●協力隊での経験と帰国後の教育現場、地域での還元の経験を知る。 ●ネパールで押さえておくべき開発教育のポイント等	青年海外協力隊帰国隊員※ 京都市立白河総合支援学校 教諭 大槻 一彦 氏 (ネパール:理数科教師)
16:30-17:00	事務連絡等	JICA 関西

※アジア・アフリカ・中南米・大洋州・中東の人々のために、自分の持っている技術や経験を生かしてみたい。そうした強い意志を持っている方を派遣し、支援するのが青年海外協力隊/シニア海外ボランティア事業です。現地の人々と同じ言葉を話し、ともに生活・協働しながら開発途上国の国づくりのために協力しています。

参加者の声

◇ 研修に行くにあたって、様々な観点から理由を考えたり支援の内容を確認したりすることができた。自分たちの担う役割も認識できて良かった。

◇ 今回の研修で大切にしなければならない目標や、意識の持ち方について考えることができました。

一枚の写真やスライドショーから多くのことを学べることを実感できたのが良かったです。

◇ グループでのワークショップを通して、開発教育のヒントをたくさん学ぶことができました。また、先生方と交流がたくさん図れ、不安な気持ちも和らぎました。

◇ グループでたくさん意見交換や共有ができたので他の先生が考えていることを知ることができて良かった。校種は違っても基本は同じだと思いました。

◇ ネパールの研修に行くにあたって、事前に押さえておくべきことなどをたくさん教えて頂きました。ネタをたくさん準備して現場へ行きたいと思います。子どもたちの心に残る開発教育ができるようツールをたくさん収穫したいと思います。



第二次事前研修

(1)日時:2017年7月1日(土)10:00-2日(日)17:00

(2)目的:①派遣国に関する知見を深める。

②開発教育教材・手法について学ぶ。

③参加者自身の研修テーマを設定し、実践授業をイメージする。

④参加教員同士の研修目的の共有を図り、事前準備について明確にする。

⑤海外研修までの準備(役割分担・渡航手続き等)を行う。

(3)プログラム内容

[第1日目:7月1日]

時間	内容	講師
10:00-10:30	海外研修日程について	JICA 関西
10:30-12:00	ネパールについて学ぶ② ●ネパールが抱える課題について	とよなか国際交流協会 山本 愛 氏
12:00-13:00	休憩	
13:00-14:00	ネパールでの防災教育の実践について	プラス・アーツ 宮田 純子 氏
14:00-16:00	2016 年度参加者による研修報告	2016年度ネパールコース参加者
16:00-17:00	ネパールの学校での交流時間の組み立て方	2016年度ネパールコース参加者
17:00-18:00	中間ふりかえり	川崎医療福祉大学 山中 信幸 氏
18:00-19:00	グループワーク ●役割分担、海外研修に向けての準備等	《アドバイザー》 川崎医療福祉大学 山中 信幸 氏

[第2日目:7月2日]

時間	内容	講師
10:00-11:00	渡航説明(旅程の案内、ビザの申請等)	国際サービスエージェンシー
11:00-12:30	ワークショップ②	川崎医療福祉大学 山中 信幸 氏
12:30-13:15	休憩	
13:15-16:45	ワークショップ③	川崎医療福祉大学 山中 信幸 氏
16:45-17:00	事務連絡	JICA 関西



事後研修

(1)日時:2017年8月27日(日)10:00-17:00

(2)目的:①海外研修で得られた教材を共有する。

②海外研修での経験を教材化し、授業で実践するためのカリキュラム作成。

③帰国後の教師海外研修ネットワークへの参加促進。

(3)プログラム内容

時間	内容	講師
10:00-11:00	資料整理・教材共有	川崎医療福祉大学 山中 信幸 氏
11:00-12:30	実践授業について	教師海外研修 OB 会
12:30-13:30	休憩	
13:30-16:30	実践授業計画作成	川崎医療福祉大学 山中 信幸 氏
16:30-17:00	事務連絡	JICA 関西

参加者の声

- ◇自分だけの記憶だけでは思い出さなかったような小さなエピソードをたくさんの先生方と共有できたので、教材作りのヒントを得られました。
- ◇様々な視点からの他の先生方の授業案を知れてよかったです。自分の授業案のヒントになりました。
- ◇子どもたちに何を伝えたいのか何で伝えたいのかなど、自分に問いかけて考えることができました。
- ◇OBの方を交えて、過去の研修時のエピソードや実践授業の内容を教えていただけたので良かったです。また、研修後の授業のすすめ方についても参考となりました。
- ◇一人で考えると行き詰まることがあるが、近くの方と相談しながら進められたので具体性が増しました。
- ◇どうすべきか、何が必要かということを考えられる時間がとれたこと、また互いに考えを聞いたことは有意義でした。
- ◇単元をとおして、子どもたちにどうなってほしいのか、またそれに向けてどうすればよいのか、じっくり考えたりほかの先生にアドバイスをもらったり、とても充実した時間でした。

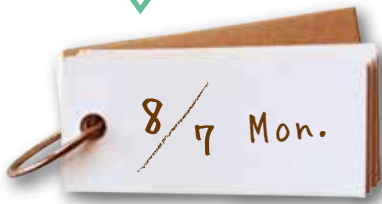


海外研修

海外研修日程 — ネパール —

日時	プログラム	滞在先
8/6 (日)	関西国際空港発	バンコク
	関西空港→バンコク	
8/7 (月)	バンコク→カトマンズ	カトマンズ
	教育局訪問	
	『小学校運営改善支援プロジェクト (SISM2)』 事業ブリーフィング	
8/8 (火)	JICA 事務所でブリーフィング	カトマンズ
	【市内視察】 アサン市場視察	
	【市内視察】 パシュパティ寺院	
	【現地 NGO】 Independent Living Center Kathmandu 訪問	
8/9 (水)	【現地 NGO】 INSEC 訪問	カトマンズ
	シニアボランティアの活動視察	
8/10 (木)	青年海外協力隊員の活動視察	カトマンズ
	【市内視察】 ショッピングモール (LABIN MALL)	
	【現地 NGO】 Love Green Nepal	
8/11 (金)	【青年海外協力隊 + 参加者による学校での防災教育】	カブレパランチョーク郡
	① 現地小学校の授業視察	
	② 参加者による防災教育の実施	
	③ 青年海外協力隊員の活動視察	
	④ 現職隊員との意見交換・交流	
村落ホームステイ		
8/12 (土)	村落ホームステイ	カブレパランチョーク郡
8/13 (日)	ドゥリケル・カトマンズへ移動	カトマンズ
	青年海外協力隊員の活動視察	
8/14 (月)	【技術協力プロジェクト】 ハヌマンドカ (王宮) 訪問	カトマンズ
	【市内視察】 タメル	
	帰国前の海外研修報告	
8/15 (火)	カトマンズ→バンコク	機内泊
	バンコク→関西空港	
8/16 (水)	関西国際空港到着	

訪問先所感



▼【技術協力プロジェクト視察】-教育局- ～「小学校運営改善支援プロジェクト(SISM2)」事業説明～



日本の文科省に相当。教職員への研修体制や、2030年に向けたマイルストーンの作成など、発展途上国またそれ以上に国を押し上げていこうとする気概を感じた。日本の学習指導要領に相当するものがなく、地方それぞれに教えることを依存しているなど、多民族国家ならではの目標実現の難しさを垣間見た。【和田】



▼【JICAネパール事務所訪問】

事前研修で、ネパールでは今空前の出稼ぎブームだとは話に聞いていたが、年間で約300万人の人が出稼ぎに出ており、その海外からの送金がGDPとなっている事実にはっとさせられた。「出稼ぎではなく、自分たちの力でこの国で暮らす力をつける」という言葉は、この後の研修中に何度も思い出した。【堀尾】



【現地 NGO訪問】-Independent Living Center Kathandu- ▲ ～草の根技術協力「震災被災障害者のエンパワメントと主流化」事業説明～

ネパールでの障がい者の地位向上に取り組んでいる団体を訪問させていただいた。日本とは違う障がい者に対する考え方のもと、十分な国からの支援も得られていない中で、国を動かそうと声を上げて活動されている方たちの力強さを感じた。カトマンドゥの街を見るとバリアフリーにはほど遠く、国の経済発展を考えていく中で、障がい者の社会参画は置き去りにされがちな問題ではあるが、だからこそこのような団体の草の根レベルの活動が大きな意味を持つし、私たちとしては教育面での改善策はないものかと考えさせられた。【倉】



▼【現地 NGO訪問】 -INSEC-

～草の根技術協力『教職員対象の防災教育人材育成・教材開発研修』事業説明～

一番感銘を受けたのは、日本のやり方をそのまま使うのではなく、ネパールの先生方が自分たちのやりやすいようにアレンジをして実践されていること。そこまでやろうと思わせた、代表 Deepack さんの熱意もあったのだろうと思います。オリジナリティにあふれた教材は、大人の私たちもとても楽しめて、魅力的なものばかりでした。ぜひ真似させていただきたいと思いました。【永森】



▼【シニアボランティアの活動視察】

～交通安全～

ネパールに来て一番初めに感じた交通状況の悪さについて、日本の方が活動されている様子を見ることができてよかった。バイクや車に乗る意識が日本人とネパール人ではかなり異なり、電力供給の面での信号設置の難しさなどがあるため、日本の交通ルールをネパールでそのまま当てはめることが正しいことではないと感じた。【吉川】

▼【青年海外協力隊員の活動視察】

～環境教育～

街中にゴミが溢れているのに、ネパール人がゴミに関して問題意識を持っているということにはかなりの驚きがあった。また実情として、海が周りにないことからゴミは川に流せばどこかに消えていくと思込んでいる人も少なくないようだった。また、ウエストピッカーについても開発途上国では子供たちが金属やガラスを分別してお金に換えているというイメージがあった。実際には、村人が農業の傍らでおこなっているのは新たな発見であった。【西】



▼【現地 NGO訪問】 -Love Green Nepal (パンチカール事務所)-

～草の根技術協力『土壌改良と人材育成による生計向上体制構築』事業説明～

コーヒーの植樹のために苗木を育てておられる女性の姿が心に残りました。パソコンの指導による女性の就職支援等、取り組んでおられることの幅の広さに驚きました。町から離れた場所でもできる活動や仕事などについて考える機会となりました。安定した就労や雇用を生む仕組みについてももう少し学びたいと思いました。【橋本】



▼【青年海外協力隊員の活動視察+参加者による学校での防災教育】

子どもたちの屈託のない笑顔がとても印象的だった。自分の交流授業は反省すべき点ばかりだが、少しでも異文化に触れられたのではないかと思う。防災教育のゲームは、子どもたちがすぐに覚えてくれて一緒にできたことに喜びを感じた。簡単でしかも行動がわかるものは効果的だと思った。これは日本で行う上でも大切にしたい点だ。【樋上】



▼【村落ホームステイ】

土間に座り、手を使って食事することや、直火で炙ったロティやトウモロコシなど、村の伝統的な生活を体験することができた。「生きる」ことに一生懸命な生活様式をも持つ人々との出会いは、自分自身の今の暮らしを見直すきっかけになったと思う。【上内】



▼【青年海外協力隊員の活動視察】-ドゥリケル病院-

立地面や資金面の都合はあるだろうが、病院でのバリアフリーへの対応の遅れや、意識の低さが大きな課題であると強く感じた。看板の視覚化というのも驚きであった。これは日本でももっと取り入れる必要があると考える。単に医療ということだけでなく、生活改善などにも取り組むことがこの病院のすごさだと感じた。救急においてもデポジット制という国の医療に対する取り組みの差に複雑な思いを持った。【山村】



▼【技術協力プロジェクト視察】-ハヌマンドカ(王宮) 訪問- ~文化復興支援事業~

ハヌマンドゥカは歴史ある建築物で素晴らしい彫刻やネパールの伝統文化を感じることができた。また、ここでは 2015 年の地震で被災した建築物を、日本の支援によってどのように修復しているかを見学した。日本だけではなくアメリカや中国も修復に参加しているが、日本が文化財修復の技術を生かして丁寧に残存の部材を確認し過去の改造変遷にも留意して修復をしていることには感銘を受けた。またネパール人の人材育成を合わせて行っていることも素晴らしいと思った。【倉】



◀【帰国前の海外研修報告】 -JICAネパール事務所-

ネパールでの全日程が終わり、この研修で感じたこと、学んだことを発表しました。日本での当たり前が世界の当たり前でないということを痛感しました。そして私たちがネパールで得た経験を目の前の子どもたちへ伝えていくことが必須です。少しでも世界へ視野を広めるきっかけづくりに私たちがなりたいと思いました。【宮本】



同行者より

海外研修に同行して

独立行政法人国際協力機構
関西国際センター（JICA 関西）
国際協力推進員 奈良県担当 石田 さやか

2017年度の教師海外研修のテーマは『SDGs（持続可能な開発目標）に向けて私たちに何ができるかを考える～ネパール・防災～』ということで、昨年度に引き続き、訪問先はネパールでした。今年も関西2府4県の学校の先生方からたくさんの応募があり、11名の先生方が参加してくださいました。また、今回は地方メディア派遣として、奈良テレビ放送の方1名にも現地にも同行取材していただくことができました。

ネパールでの研修は、先生方にとって日本と違う環境に驚きの連続だったようで、珍しい光景に一生懸命写真を撮る様子や、夜の勉強会では日本とネパールの違いについて先生同士で熱く語り合う日もありました。特にこの研修の醍醐味であった、現地の学校での防災教育・交流授業の実施、そしてホームステイの体験が印象に残ったということで、事前研修での情報だけではわからなかったネパールについて、実際に体験するということの重要性を改めて感じました。

2015年4月にネパールを襲った大地震。地震以外にも様々な災害があるネパールで、防災の意識を子どもたちにも持ってほしいという思いで、先生方は直前まで内容を話し合い、ゲームと歌を通じての防災教育を実施されました。中でもゲームは子どもたちに大人気で、授業後も思わず口ずさむ子がいるぐらい心に残る授業となりました。

またその後の交流授業では、先生方はそれぞれのクラスを担当し、ネパール語が分からない中で、様々な工夫をしながら授業を行いました。日本の文化を伝えたいということで、日本から道具を持参し、習字、折紙、剣道などの紹介も行われ、子どもたちも今まで見たことがないものに興味津々の様子でした。子どもたちに対する先生の思いは日本でもネパールでも同じで、決して言葉が通じなくても熱意は伝わるのだと感じた場面でした。

帰国後の事後研修ののち、先生たちは各学校で実践授業をしていただき、生徒に合わせて様々な工夫しながらネパールについて伝えていただきました。JICA ネパール事務所での帰国前の報告会の際に所長より、「先生方の言葉に力があつた。生徒さんへ同じように伝えて欲しい」という言葉がありましたが、授業での様子を拝見していると、自分が体験したことを生徒にも伝えたいという気持ちが表れていて、思いが詰まった授業となっていました。生徒たちの反応としては、先生からの話を通して身近に感じる事ができたようで、「今までほとんど知らない国だったけど、ネパールに行ってみたくなった」という子や、「もっと他の国のことも知りたくなった」「自分にできることを考え行動したい」という意見など、色々考えるきっかけとなっていて、私自身大変嬉しく思いました。先生方には、今回の研修で得たことを振り返りながら、今後もその経験を教育現場で活かしていただけることを期待しております。

また、今回は奈良テレビの番組内でも研修の様子を数回に分けて放送していただいたことで、奈良県内で関連のパネル展を実施した際には、番組を見てくださった方が「この前奈良テレビに出ていた人やで！」と他の方に教えている様子を目撃したり、参加された先生の教え子さんがテレビを見てもっと知りたくなったと見に来てくれたりと、色々な反響がありました。たくさんの方にネパールやJICAについて知ってもらえる機会をいただくことができ本当に良かったです。

最後になりましたが、この研修でお世話になったJICA ネパール事務所をはじめ、現地で受け入れしてくださった団体やJICA ボランティアの皆さん、国内研修で講師を担当してくださった方々、奈良テレビの方々など、ご協力していただいたすべての方に感謝いたします。

